

宇宙生命哲学

ことばはじめ

53

北里環境科学センター
名誉顧問 / 宇宙生命哲学者

伊藤 俊洋

敵基地攻撃能力は日本を滅ぼす！

ロシアがウクライナに侵攻して早11カ月が過ぎた。ミサイル攻撃で無残に破壊された高層ビル、被災した市民の姿に、胸は張り裂けんばかりの日が続く。人類は、第2次世界大戦の後も、朝鮮戦争、キューバ危機、ベトナム戦争、イラン・イラク戦争、アフガニスタン紛争などを経験し、少しは賢くなり、世界は平和の方向へ向かっていたのではなかったのか。今回のウクライナ侵攻は、一歩間違えると、核戦争、第3次世界大戦が勃発する危険も孕んでいる。戦争が止む気配もなく、軍事評論家は数年は続くだろうと断言している。戦争当事国は疲弊し、世界経済は力を失い、地球環境は破壊され、地球上の生命現象は衰えてゆく。

戦争の真舞台では、武器商人が暗躍し、古くなったミサイルを売りつけて、新しい機能を持つ兵器を開発し、その最新兵器を世界中に売りさばこうとしている。軍事演習と称して、新しい兵器の性能を確認・宣伝し、古い武器・弾薬を砂漠や海に捨てさせ

る。武器商人は、戦争が早く終わることを望まない。長引かせ、世界中に緊張を走らせ、新しい地域に戦闘状態を作ることこそ武器商人たちの仕事である。



「へいわとせんそう」文・たにかうわしゆんたろう 絵・Noritake (2019.3プロンズ新社)



武器商人が手にした財源の一部は、時の権力者に買われ、その一部は選挙人である一般国民の元に流れてゆき、票となつて循環する。

この悪い流れを断ち切るには、国民が平和の意識を高め、政治に真剣に取り組まなくてはならない。軍事費を上げて、敵基地攻撃能力を手にし、力で平和を勝ち取る政策に未来はない。大国の手先になり、自国の若者を古い兵器で武装させ、敵の標的に晒すことになる。敵の国にも味方の国と同じように、幼い子供がいることを想像してみよう。「へいわとせんそう」(図参照)は、大切なことを静かに語りかける素晴らしい絵本である。

世界中の人類が、素敵な地球人としてしっかり目を開き、選挙に臨めば、世界を変えることができる。我が国は、第2次世界大戦で、大きな代償を払

って戦争を放棄し、世界に平和国家を宣言した国である。日本が辿ってきた歴史を正視し、その教訓を内外に知らしめることで、武力を持たなくても世界をリードして行くことができる筈だ。それが、真の意味での国力であり、将来の子供達が誇りを持って世界に羽ばたける国作りに繋がるだろう。何も難しいことはない。その気になれば、直ぐにできることである。

祝 相模経済新聞創刊51周年
サイエンス カフェ コスモス
Science Cafe Cosmos
宇宙生命哲学研究所



活動: 科学談話会・講演(随時受注)
科学演示実験(出張有り)

252-0329 相模原市南区北里1-19-2
Tel/Fax: 042-778-2753 (伊藤俊洋)
E-mail: itoht1201@gmail.com